戦略的創造研究推進事業
（社会技術研究開発）
令和２年度研究開発実施報告書

ＳＤＧｓの達成に向けた共創的研究開発プログラム

シナリオ創出フェーズ

「性暴力撲滅に向けた早期介入と PTSD 予防のための

人材育成と社会システムづくり」

研究代表者　長江 美代子
（日本福祉大学看護学部　教授）

協働実施者　片岡 笑美子
（一般社団法人日本フォレンジックヒューマン
ケアセンター　会長）

目次

１．研究開発プロジェクト名 2
２．研究開発実施の具体的内容 2
２‐１．目標 2
２‐２．実施内容・結果 4
２‐３．会議等の活動 20
３．研究開発成果の活用・展開に向けた状況 21
４．研究開発実施体制 21
５．研究開発実施者 22
６．研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など 23
６－１．シンポジウム等 23
６－２．社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など 23
６－３．論文発表 23
６－４．口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表） 23
６－５．新聞報道・投稿、受賞等 23
６－６．知財出願 24

１．研究開発プロジェクト名

性暴力撲滅に向けた早期介入と PTSD 予防のための人材育成と社会システムづくり

２．研究開発実施の具体的内容

２－１．目標

（１）目指すべき姿

本プロジェクトが取り組む社会課題は、性暴力被害、心的外傷後ストレス障害（以下PTSD）発症、生活・社会不適応、再被害という悪循環である。性暴力被害の多くは見逃されており、実際の被害発生数は不明である。見逃されている理由としてあげられるのは、①被害者は誰にも言わない、相談する場所も知らない、相談する場所が不足、②研修を受けて適切な知識を持っているスタッフが不足、③情報システムの不足で迅速な関係組織間の情報共有・機動的連携が不調、④エビデンスに基づく政策決定(EBPM)に活用するデータがないために制度普及が不足、⑤直接収益につながらないと言う経営者の視線、などである。性暴力の被害者は、社会に根強く存在する偏見のため二次被害を受けやすく、被害者のおよそ半数が PTSD を発症する。PTSD に特徴的なトラウマ記憶は、物事や行動の解釈や問題解決への認知反応を歪めるため、社会生活を妨げる。適切な支援が得られないと問題は長期化し、人間関係の悪化、失職、生活困難、慢性的健康障害、再被害、貧困の悪循環に陥る。PTSD の病理は次世代に及び、その治療は喫緊の課題であるが、PTSD 治療を提供する医療機関もスタッフも僅少という現状がある。

目指すべき姿は次のような状態である。すべての性暴力被害者は救援され、予想される PTSD 発症に対して予防・治療・回復に沿った適正な医療が提供され、健康で社会生活が継続できる。性暴力被害者のためのワンストップ支援センター(以下 OSC）が、国連の推奨に基づき人口 20 万人に一箇所設置され、研修を受けたスタッフが配置されている。社会には性暴力は犯罪であるという認識が浸透しており、すべての性暴力被害者はためらうことなく助けを求め、二次被害を受けることなく、トラウマ治療を含め包括的な支援を一箇所で受けることができる。性暴力を許さない社会システムにより、将来的には性暴力は撲滅する。

（２）研究開発プロジェクト全体の目標

シナリオ創出フェーズでは、導入として、愛知県内すべての性暴力被害者救援と、トラウマおよび PTSD 専門医療の拡充を目指す。同時に、性暴力に関する正しい知識と技術を持った人材育成と、性暴力を未然に防ぐことができる社会環境づくりに向けた啓発・広報活動を展開する。長期的には日本国内への拡充を図り、将来的には速やかな性犯罪防止対策の具体化とエビデンスベースの実践が根付いた社会システムの構築により性暴力撲滅を目指す。

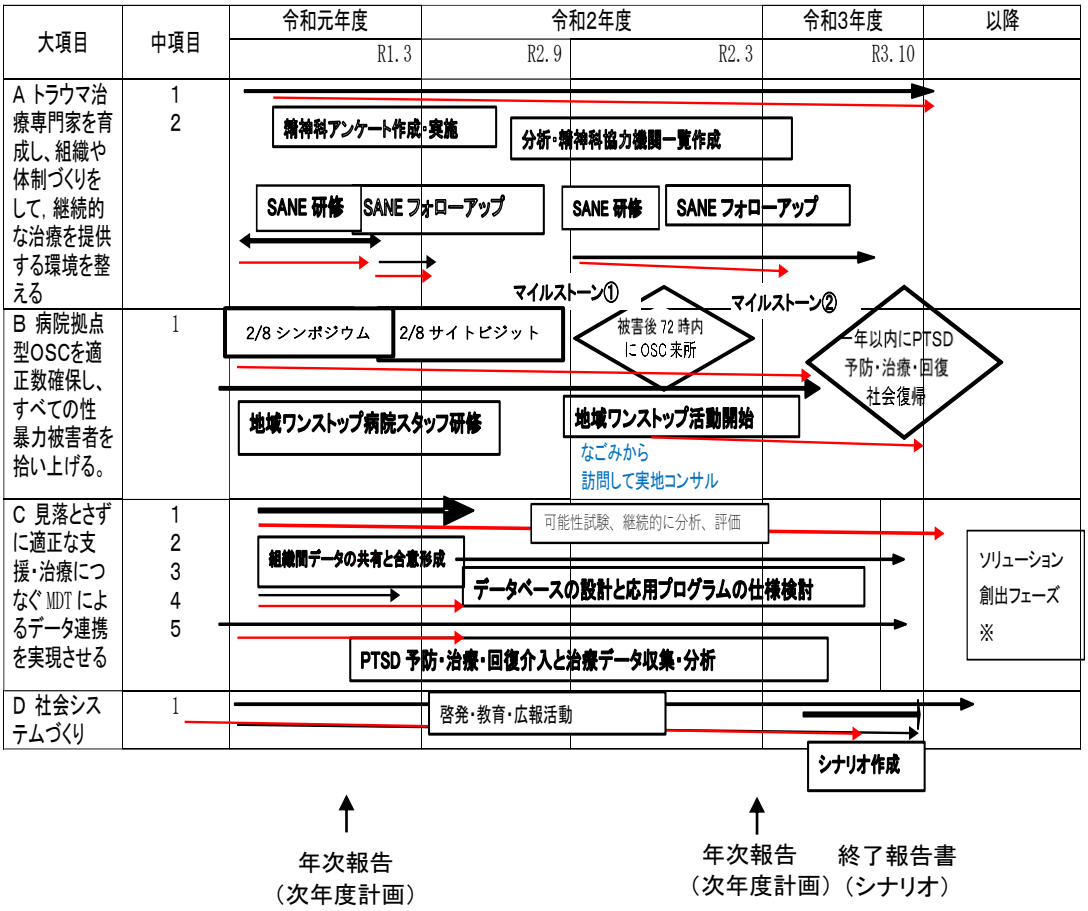
- なごみグループは、愛知県との協働により、性暴力被害者支援看護師(SANE)を配置した病院拠点型 OSC を複数開設し、なごみをハブとしてモデル化し、他地域へと展開していく。国連推奨の女性 20 万人に一か所の OSC を目指す。愛知県人口 730 万人に対し、35 箇所設置を目指し、すべての被害者を救済する（Backcasting）。
- 研究グループは、なごみの活動に関わってトラウマ治療専門家の育成と体制づくりをし、被害者の社会復帰を支援する。技術シーズとして、PTSD 長時間暴露法（PE）を用いて継続的に治療提供できる環境づくりをする。すべての被害者を拾い上げ、PTSD の予防・治療・回復へ確実につなぐことで、次世代への連鎖を断ち切る（Outside-in）。

- データサイエンス支援グループは、データベースとネットワークを構築し MDT(メンバー様式 C-2 参照)によるデータ連携を実現させる。MDT を支援する情報共有・意思決定支援システムおよびデータの標準化・蓄積・分析基盤を検討する。治療効果や症状に関するデータベースを作成し、PE 治療や支援プランなど、ICT（データ共有、電子会議体）を活用しデータに基づきアウトカムを設定・評価・修正し課題の解決に向かう（Solution driven）。
- 啓発・教育・広報活動及び人材育成については、３グループが共同し、シンポジウムやワークショップを開催し、継続的に多分野にはたらきかける。

２－２．実施内容・結果

（１）スケジュール

研究開発期間中（24ヶ月）のスケジュール



（２）各実施内容

A.　トラウマ治療専門家を育成し、組織や体制づくりをして，継続的な治療を提供する環境を整える。

1.　性暴力被害者のトラウマケアおよび治療について全国の精神科関連機関にアンケートを実施し、協力機関一覧を作成する。

［今年度の到達点①］

日本福祉大学の倫理審査委員会の承認を得て、作成したアンケートを、愛知県と京都府で令和2年 6 月配布、7 月回収集計予定。同年8月京都 SARA と「なごみ」に協力機関一覧を提供。

実施内容

- 2020年6月～2021年10月（愛知県における実施）アンケートを実施し、報告書を作成した。
- 協力を申し出た機関 32 カ所の一覧を作成した。
- 全国各地での実施に向けて、Web 版アンケートを作成した。

＜変更点とその背景・理由＞

- 京都におけるアンケート実施を次年度に延期した。
  京都 SARA を仲介としてアンケート調査を依頼した。精神科診療関連の代表者の協力の了承は得たが、京都 SARA は京都府の確認が必要ということだった。窓口担当者に連絡したが、その先のミーティングの日程が決まらず、実施に至っていない。

2.　トラウマケアおよび治療専門家を育成する。

［今年度の到達点①］

PTSD暴露療法、（PE療法、TF-CBT）、「なごみ」アドボケーター研修（PFA による被害直後の危機対応）を実施。

実施内容

- CARE を日本福祉大学看護実践研究センターの公開講座として実施した。
- なごみで性暴力被害者対応の臨床心理士研修は継続して実施した。
- PTSD 発症者に対して PTSD 暴露療法（PE）、トラウマ焦点化認知行動療法（TF-CBT）を実施。
- ISVA(Independent Sexual Violence Adviser)という UK 認定の性暴力に関する実践的なオンライン支援者研修の導入を、全国的なメンバーで計画を進めている（東京、福岡、名古屋）。現在 OSC のベースラインアセスメントを翻訳し、OSC としての機能をチェック。

＜変更点とその背景・理由＞

- COVID-19 の影響により、なごみアドボケーター研修（PFA による被害直後の危機対応）は開催できず、オンライン開催を検討した。UK 認定の、資格にこだわらない体系的なオンライン支援者研修プログラム ISVA（イスバ）があることを知り、UK に問い合わせ実施可能であることを確認した。医療／支援中心の支援センターと法的プロセスが中心の犯罪被害者支援センターをつなぐ働きも加味した。
  https://www.gov.uk/government/publications/the-role-of-the-independent-sexual-violence-adviser-isva

［今年度の到達点②］

「なごみ」SANEフォローアップ研修（トラウマ症状に対する心理教育、心理教育アプリSARAの活用）

実施内容

- SANE フォローアップ研修は、集団研修としては実施できなかったが、協力病院の SANE 受講者にたいして、電話、zoom、対面で個別に相談を受け付けた。

＜変更点とその背景・理由＞

- COVID-19 の影響により、対面集団研修は開催できなかった。また、協力病院自体も COVID 対応があり、研修参加への配慮が困難な状況があった。

［今年度の到達点③］

米国ペンシルバニア大学不安治療研究センター（CTSA：所長 Edna Foa氏）よりシンポジストを招致し、Webまたは対面の公開シンポジウム開催し、次の提案に生かす。

実施内容

- テーマを、NGM4S プロジェクトの実践報告とし次年度に延期した。

＜変更点とその背景・理由＞

COVID-19 の影響により米国シンポジストとの連絡がうまくいかず、最終的には今年度内のスケジュール調整が困難となった。→5 月 29 日 NGM4S のメンバーによるプロジェクトの報告、情報共有、今後に向けてのシンポジウムとして実施した。シンポジウムの記録は NFHCC のホームページで共有した。https://nfhcc.jp/

B.　ワンストップセンターを適正数確保し、できる限り多くの暴力被害者にアウトリーチする。

［今年度の到達点①］

令和３年３月末までに地域内救急救命病院1～２箇所にSANEを配置し性暴力被害者急性期ワンストップ支援センター（以下地域OSC→連携センター）を開設する。

実施項目①：地域内救急救命病院に配置する SANE の育成

実施内容

- 愛知県との協働により第7回目SANE養成研修を実施した。
  募集期間　2019 年 7 月 10 日～9 月 10 日
  開講期間　2019 年 10 月 3 日～2020 年 1 月 10 日
  開講時間　64 時間
  場所：全オンライン（日本福祉大学名古屋キャンパスより）
  受講者数：30 名（愛知県内の拠点病院候補救命救急 24 センターのうち 11 センターから 18 名、連携する精神科医療機関から 3 名の看護師が受講）
  主催：日本福祉大学
  共催：性暴力救援センター日赤なごや「なごみ」、NFHCC
- 受講生アンケートの分析により、SANE 養成研修についての愛知県連絡会議および日本福祉大学のプログラム評価会議による研修内容の改善と今後の展開を検討した。
- なごみによる、連携センターからの事例相談と事例検討を実施した。

実施項目②：地域内救急救命病院の OSC 立ち上げのサポート

実施内容

- 連携センターSANE 受講生によるアクションプランの作成、計画、実施、修正を共同で実施した。
- 連携センタースタッフの「なごみ」見学と、院内プロジェクトの立ち上げ、院内管理職および現場のスタッフの研修実施をサポートした。

＜変更点とその背景・理由＞

COVID-19 の影響により、以下の対応とした

- SANE は全面オンラインで実施した。
- SANE 受講後の導入病院所属の看護師の SANE 実習を一時中止した。
- 地域OSC設置病院は、愛知県と検討の上、今後は「連携センター」とした。

［今年度の到達点②］

日本救命救急医学会との対話を始め、SANEの役割を明確に示すことで、その活用を促進する

実施内容

- 日本救急医学会（学術集会　岐阜 2020.11 月 18-20 日）で、米国ネブラスカ大学救急部門チームと協働でポスター発表した。

＜変更点とその背景・理由＞

COVID-19の影響により、以下の対応とした

- 米国ネブラスカ大学メディカルセンター救命救急部門のチームを招致し、救命救急における性暴力・DV・虐待対応の重要性と SANE の活動について特別講義とシンポジウム開催（病院と SANE 受講生他対象）を再度企画したが中止した。
- 日本救急医学会学術集会　（岐阜 2020.11 月 18-20 日）は Web 開催となり、ポスター採択となった。

C.　見落とさずに適正な支援・治療につなぐ MDT によるデータ連携を実現させる：項目 A、B の PE 実施環境のデータ収集環境構築，データ分析

- 令和２年７末月までにデータベースに関する現場との合意形成を行い令和３年４月に MDT 構成各部門の役割管理を含めてより実用に耐える内容かどうかを精査する。

1.　組織間データ項目の標準化を行いデータベースの構造を設計する。

［今年度の到達点①］

令和２年度は，令和元年度に開始した、既存ケースを用いたロールプレイングなどによる関係機関の合意形成プロセスを継続し，データ項目整備ならびにデータベース設計を進めた。様々なイレギュラーな業務フローや連携のフローが想定されるため、そのようなフローを押さえた上で、複数組織間の共有するべきデータならびに各ケースにおける具体的なデータの流れを、まず「なごみ」と児童相談所間を出発点として、明確化に努めた。連携方法の確立による仕様策定の後にアプリケーション化する事が肝要であるため、まず、両組織が使い慣れている調査用紙ベースの連携開始に着手し、実ケースを含めて利用ケースを蓄積中である。

実施内容

- 「なごみ」内のデータのみを使ったデータ項目・分析を実施し、MDT情報共有シートを設計し、児童相談所、警察、「なごみ」間で、紙ベースでケースについての情報共有を開始した。
- JSTのサポートを受け、教育委員会・児童相談所・警察の少年サポートセンターの3者が同一ビル内に同居して対応するという、「北九州三者同居制度」について、京都産業大学の田村正博教授とのZoom会議により連携機関の同居制度の可能性について検討した。（2020.11.16）
- JSTのサポートを受け、児相、警察、検察、弁護士、医療従事者、ソーシャルワーカーなどを対象とした「司法面接研修」について、立命館大学の仲真紀子教授とのZoom会議により、多職種多機関の現場の共有と合意形成について検討した。（2020.12.14）
- NGM4Sプロジェクトと名古屋市児童相談所との連携の今後についてミーティングの機会を持った。（2021.3.5）

＜変更点とその背景・理由＞

- 合意形成プロセスは、COVID-19 の影響により昨年度より継続して中断しているため、実施可能な「なごみ」内のデータのみを使ったデータ項目・分析にくわえ、他地域での複数組織間のデータ共有の実践についてミーティングの機会を得た。

2.　データベースの作成と応用プログラムの開発

［今年度の到達点①］

「なごみ」の入力ケースを対象に、入力省力化ならびにデータ蓄積方法の改良などの「なごみ」業務効率向上を目指し、外部からの接続を不可とした独立（スタンドアロン)運用の、ウェブベースのケース情報入力管理システムを構築した。本入力システムは、「なごみ」における標準入力システムとする予定であり、SANE などによる実用試験、および、改良点の抽出が成されており、要望・改修点の短期反復反映（アジャイル）形式で改良を繰り返してきた。令和 3 年度 4-5 月期において移行する計画となった。また、同入力システムは、項目を C-1 で組織間データ共有に用いている MDT 情報共有シートとほぼ共通化できており、電子ベースの組織間連携が開始された際に向けた試作ソフトウェアの立ち位置にある。現状は、セキュリティの観点からスタンドアロン運用となっているが、ウェブベースの入力システムであり、VPN などのセキュア経路を併用することで電子ベースの組織間連携に迅速に対応できる準備が整った。

実施内容

- なごみの業務に沿ったウェブベースのケース情報入力管理システム(ただし、現在はスタンドアロン運用)を構築した。
- 上記ウェブベースのケース情報入力管理システムについて、SANEなどによる実用試験、および、改良点の抽出、ならびに、アジャイル形式で改良を進めた。
- 上記ウェブベースのケース情報入力管理システムについて、C-1で報告した組織間データ共有に用いているMDT情報共有シートと入力項目を共通化させ、電子ベースの組織間連携が開始された際に向けた試作ソフトウェアとした。

［今年度の到達点②］

産業技術総合研究所が開発した虐待対応意思決定支援プラットフォーム”AiCAN”について、データの標準化及び現場との合意形成プロセスの結果を経て、実験的に試用できるかの検討結果、ならびに使用できる場合、その適正開始時期についておよその合意を得る。

実施内容

- 名古屋市で実用化していくためのAiCANの課題について、株式会社AiCANのCEOである髙岡昂太氏を中心に、名古屋市三児相の代表者を加えて検討した。（2021.1.25）

＜変更点とその背景・理由＞

COVID19 の影響で対面での話し合いがすすまないこと、個人情報保護の対応について時間がかかることが予測され、合意形成プロセスがすすまないことなどから、期間内に AiCAN 導入は困難と判断されたため、基本的な計画の見直しが必要となった。

3.　「なごみ」利用者にトラウマケアおよび PTSD 治療を実施し、効果を評価する。

［今年度の到達点①］

PE 治療の記録を集積するための C２における入力システムの設計･構築を完成させ、実働を開始。合わせて、PE 治療記録のデータ収集を開始。

実施内容

- PE 治療の記録を集積するための Web ベース入力システムの設計･構築した。
- 2020 年 4 月から 2021 年 3 月末までの期間中 46 名に対しトラウマケアとしての心理教育を実施し、延べ 173 回面接を実施した。被害者 1 人につき平均 3.8 回の面接である。PTSD 症状が継続した 3 名の利用者に対して PE を実施してデータを得た。

［今年度の到達点②］

電話対応（アドボケーターおよび SANE）について来所者から評価を得るための入力システムの構築及びデータ集積を開始する。

実施内容

- 利用者満足度アンケートアプリを開発した。実施に当たり、日本福祉大学の研究倫理審査委員会と名古屋第二赤十字病院のIRBの承認を得る予定である。

［今年度の到達点③］

心理教育を実施（SANE と CNS）し、被害後１ヶ月でトラウマ症状を評価、３ヶ月で PTSD 発症の有無を症状尺度で評価する。

実施内容

- CNSが心理支援が必要な利用者に対して心理教育を継続して提供し、トラウマ症状を評価している。
- PTSD、うつ、不安、認知などのモニターが必要な尺度について入力システムを開発した。これから試行を経たのち実用化する。

＜変更点とその背景・理由＞

- COVID19によりSANEのフォローアップ研修ができなかったため、心理教育

の実践にはいることができなかった。

［今年度の到達点④］

PE 治療セッションにおける対応効果、患者状態の推定に向けた HRV（心拍変動：Heart Rate Variability）ベース指標の検討を新たに開始した。PE 治療教育における Supervision の AI による代替、PE 治療セッションにおけるサポート AI の実現を目指し、PE 治療の普及ならびに実施機会の増加へ繋げる。

実施内容

- 新規に開始したPE治療セッションにおけるHRVベース指標の同期収集を開始した（令和2年度末で合計8セッション)。
- 新規に開始したPE治療セッションにおいて、PE治療施術者による主観評価値時系列の付加を開始した。

＜変更点とその背景・理由＞

- 本プロジェクトの普及対象コア技術であるPE治療の平易な利用の実現に向け、新たに到達点を設定した。

4.　被害児へのアウトリーチ

［今年度の到達点①］

なごみデータでは、10代の子どもは自身で支援を求めてこない。とくに、13歳前後の被害ケースが増加していることから、子どもにアウトリーチできる「なごみアプリ」（仮称）を開発する。

実施内容：

米国ネブラスカ大学メディカルセンター救急部門のチームより、匿名のフリーツールを参考に、これによく似たアプリを日本用に開発してはどうかという提案があり、検討中である。

https://qfreeaccountssjc1.az1.qualtrics.com/jfe/form/SV_6RInNnZuoUONitf

［今年度の到達点②］

解離症状、逸脱／問題行動、性被害の日常生活への表出などから、性被害の有無を予測するモデルの将来的探求

実施内容：

- 治療効果をモニターする（PTSD症状の見えにくさを可視化する）ためのウェアラブルデバイスの活用を検討した。装着時の安全性、使いやすさ、呼吸などのリラクゼーション、HRV(心拍変動)モニターなど試行中。
- なごみのデータから、性暴力被害の社会経済的影響を示す試みを開始した。

＜変更点とその背景・理由＞

性暴力が見逃されている要因のひとつには、被害者本人の「性格」と解釈されがちな PTSD 症状の見えにくさである。

- 自律神経系のストレス反応の生理学的指標を計測できるウェアラブルストレスモニタリングデバイスを活用して、被害後の急性ストレスおよびPTSD状態（とくに解離など）をデータとして可視化する試みることにした。

HRV は自律神経の不均衡を測定するため、ストレスに影響される。そして、HRV データは心理状態が自律神経系全体の健康状態に与える影響について客観的なフィードバックを得るのに役立つと考えられている（Patron et al. 2012)。

- 社会経済的影響を数値化することで、性暴力が公衆衛生の問題であることを可視化できると考えた。

5. 地域ワンストップ設置病院（連携センター）で受け入れた被害者のデータ収集を「なごみ」のデータに統合し、急性期３ヶ月の対応と PTSD 発症について分析する。（B 項目より）

[今年度の到達点①]

令和元年度に開始した既存ケースを用いたロールプレイングなどによる関係機関の合意形成プロセスを継続する。スモールスタートを想定し、２組織ないし３組織程度の小規模のデータ連係プロセスについての合意と個人情報保護に基づく承諾を得た上で、将来的にデータベースが稼働した場合の活用シナリオを構築する。

実施内容：なし

＜変更点とその背景・理由＞

COVID19 の影響による全体の遅れから、実施に至らず次年度に移行することになった。

D. 啓発・教育・広報活動を通じて性暴力を未然に防ぐことができる社会システムづくり一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター（ＮＦＨＣＣ）を立ち上げ以下の活動に取り組んでいる。

1. 啓発・教育・広報活動

[今年度の到達点①]

愛知県内に止まらず全国的なニーズに応じてアウトリーチにより啓発・教育・広報活動を拡大する

実施内容：

看護大学で性暴力に関する講義を実施した

- 名古屋大学　家族看護学　性暴力被害者救援の現状と課題　オンライン（2020年6月5日）
- 日本福祉大学　精神看護学　性暴力被害の現状と多機関多職種による支援体制　東海キャンパス（2020年7月3日）
- 日本赤十字豊田看護大学　母性看護学　性暴力を受けた女性の看護　2020年7月7日）

その他の啓発・教育・広報活動について以下の表にまとめた。

2020年度 啓発・教育・広報活動

日程	会場	主催	内容
2020/8/28	西文化小劇場	名古屋市子ども青少年局子育て支援部	思春期保健セミナー 性暴力被害の理解と対応　大切な子どものからだとこころを守ろう
2020/9/18	サポートセンターあいち本部	サポートセンターあいち	性暴力被害が及ぼす影響と支援の実際
2020/9/21	国立病院機構 千葉医療センター内	病院拠点型ワンストップ支援センターちさと	性暴力被害者支援養成講座　性暴力被害者支援をするということ 病院拠点型ワンストップ支援センターの役割
2020/10/18	新宿区市ヶ谷中央ビル	日本産婦人科医会女性保健拡大部会	病院拠点型ワンストップ支援センター拡大に向けた取り組み
2020/10/19	あいちサポートセンターあいち本部	サポートセンター	性暴力被害者に対するなごみでの支援の実際 ーサポートあいちとのよりよい連携を考えるー
2020/10/23	愛知学院名城公園キャンパス	性暴力被害防止セミナー	身近におきる性暴力　大切なからだとこころを守ろう
2020/10/24	オンライン	東京都女性の安全と健康のための 支援教育センター	病院拠点型OSCにおけるSANEの実践
2020/10/25	海南病院	第1回救急勉強会	性暴力被害者のPTSDについて 病院拠点型OSCにおける性暴力被害者の急性期対応と支援について
2020/10/28	イーブルなごや　第１相談事業室	イーブルなごや	なごみにおける性被害者支援の現状と今後の連携
2020/11/4	とよた男女共同参画センター (豊田産業文化センター内)	とよた男女共同参画センター (キラッ☆とよた)	なごみにおける性被害者支援の実際 ー女性(男性)相談員さんとのよりよい連携を考えるー
2020/11/6	なごや人権啓発センターソレイユプラザなごや研修室	名古屋市委託事業 サポートセンターあいち	性暴力被害の理解と対応　大切な子どものからだとこころを守ろう
2020/11/11	オンライン	日本福祉大学保健医療福祉特講	性暴力被害の現状と支援のあり方 性暴力救援センター日赤なごやなごみの活動より
2020/11/14	名古屋司法書士会館	名古屋市司法書士会	性暴力被害の実態と急性期対応
2020/11/23	豊田市保見交流館	性暴力被害防止セミナー	身近におきる性暴力　大切なからだとこころを守ろう
2021/11/25	政府広報オンライン	内閣府山口県主催ライブ 配信シンポジウム	性暴力救援センター日赤なごやなごみの現状と課題
2021/11/27	オンライン	愛知助産師会	支援活動と課題解決のためのアプローチ
2020/12/4	日本福祉大学美浜キャンパス	日本福祉大学社会福祉学部	性暴力被害の実態と急性期対応
2020/12/15	名古屋市総合福祉会館7階　研修室	令和2年度名古屋市女性福祉相談員定例会	性暴力被害に対するなごみでの支援の実際 ー女性福祉相談員さんとのよりよい連携を考えるー
2020/2/17	京都ガーデンパレス	京都産業大学　研究機構	性暴力被害者のため意何が必要か、何ができるか
2020/12/18	名古屋人権啓発センターソレイユプラザなごや研修室	令和2年度名古屋市委託事業 犯罪被害者等支援入門講座	性暴力被害者支援 ー性暴力被害者の実態と私たちにできることー
2021/1/28	オンライン開催	あいち保育共同連合会保健部会	保育園での性虐待への対応と考え方 コロナ禍での現状 -保育に関わる皆さんとのよりよい連携を考える-
2021/2/11	オンライン	司法面接研究会　勉強会	なごみにおける子どもの被害者支援の現状と課題 司法面接を経験しての気づき
2021/2/24 ～2/28	オンライン開催	令和2年度愛知県児童虐待対策セミナー 愛知県・認定NPO法人CAPNA	多機関連携による性的虐待への対応と課題
2021/3/1	社会安全・警察学　第7号	京都産業大学 社会安全・警察学研究所	病院拠点型ワンストップ支援センターの意義 —多機関多職種の連携を中心に—
2021/3/12	なごみ（NFHCC室）	愛知県薬剤師会	オン来院診療に伴う緊急避妊薬について
2021/3/18	愛知県総合看護専門学校	愛知県防災安全局県民安	令和2年度　性暴力被害防止セミナー 性犯罪・性暴力被害者の心のケア 性犯罪・性暴力被害者の現状及び支援について

（3） 成果

A.　トラウマ治療専門家を育成し、組織や体制づくりをして，継続的な治療を提供する環境を整える。

1. 性暴力被害者のトラウマケアおよび治療について全国の精神科関連機関にアンケートを実施し、協力機関一覧を作成する。

今年度の到達点①における成果：

愛知県内精神科診療機関のうち 325 施設に郵送し、109 の施設および専門職（個人）より回答を得た（回収率 28.8%）。愛知県内 109 精神科診療施設より得た回答であり、愛知県全体を反映しているとは言えないが、回答施設/回答者の 3 分の 1 は現在性暴力被害者を診ている一方で、3 分の 1 はこれまで診ていなかった。PTSD の診療についても 3 分の 1 が PTSD 治療は実施していないと答えた。ランダム比較試験でエビデンスが確立された治療法であるトラウマに焦点を当てた認知行動療法を基盤とした PTSD 専門療法について実施しているのは 7 件であり、各地の OSC が、PTSD に対する介入が必要な被害者のつなぎ先に苦慮している現状を反映していた。背景には、日本の診療体制の問題があり、個々には協力したいという思いが表明されていた。愛知県内では 32 機関が OSC への協力を申し出た。

2. トラウマケアおよび治療専門家を育成する。

今年度の到達点①における成果：

- PCIT（親子交流療法）基礎研修修了後、臨床心理士、公認心理師、精神科医師がセラピーを開始した、さらに施設内トレーナー3 名認定されたことで、今後は PCIT セラピストの養成が可能になった。
- PE コンサルタントの認定をうけたことと、PE 研修を受けた臨床心理士 3 名がなごみで心のケアに関する活動に加わったことで、セラピー活動を拡大した。
- PE については武蔵野大学と連携してオンラインで PE を実施できることになったため、なごみで PE ができるように時間を設定した。

B.　ワンストップセンターを適正数確保し、すべての性暴力被害者にアウトリーチする。

今年度の到達点①－1における成果:

地域内救急救命病院に配置するSANEの育成では、7回目SANE養成研修を実施し、30名が修了した。

＜受講生アンケート結果＞

日本福祉大学　履修証明プログラム
性暴力被害者支援看護職（SANE）養成プログラム　2020
アンケート集計結果

1、あなた自身のことについて、お聞かせください　（該当する項目に○をつけてください）

1）あなたの職種は何ですか？該当する項目に○をつけてください

看護師 21
助産師 7
保健師 0
その他 2

2）性暴力被害者の方に関わったことがありますか？該当する項目に○をつけてください（複数回答可）

直接的に関わった 11
間接的に関わった 7
個人的に関わった 1
職場で関わった 11
無回答 5

2、各講義内容について　下記表の右枠の間（①～④）に、該当する番号を下記から選んでお答えください

※5段階評価『5が最上位評価』
【 1＝全くそう思わない　2＝そう思わない　3＝どちらともいえない　4＝そう思う　5＝とてもそう思う 】
※ 評価点算出方法【総計＋回答数】／評価点の上位3番が赤の塗りつぶし

開催日	担当	学習内容	①例を示すなどして分かりやすい講義だった	②講義内容はよく練られていた	③質問しやすい雰囲気だった	④興味深い講義だった
2020年10月3日	長江 美代子	①オリエンテーション／フォレンジック看護の概要	4.67	4.73	4.43	4.80
	片岡 笑美子	②性暴力救援センター日赤なごやなごみの現状と課題	4.60	4.63	4.33	4.70
	NPO法人 レジリエンス	③DVと性暴力	4.93	4.77	4.67	4.93
10月4日	NPO法人 レジリエンス	④トラウマを抱えた子どもたちの支援	4.93	4.80	4.77	4.90
10月10日	犬飼 千絵子	⑤関連法律の基礎：訴訟、法的補償、秘密、SANEに必要な法知識	4.57	4.63	4.43	4.80
	丹羽 咲江	⑥女性への暴力と医療／性教育の重要性について	4.90	4.70	4.37	4.90
10月24日	NPO法人 チャイルドファーストジャパン	⑦RIFCR(リフカー)研修	4.72	4.72	4.59	4.86
11月14日	丸山　洋子	⑧生活への影響：アドボケイト、SANEとの連携	4.67	4.70	4.50	4.70
	田中 嘉寿子	⑨検察官から見た性犯罪捜査の問題点	4.67	4.57	4.47	4.80
11月28日	長江 美代子	⑩被害者のケアにおける職業的・倫理的行動	4.27	4.33	4.47	4.47
	加納 尚美	⑪多職種連携／SARTチームにおける地域連携	4.17	4.37	4.33	4.43
	船山 健二	⑫受刑者、高齢者、障害者、言語・コミュニケーションの　障壁を持つ対象者の心理社会的課題	4.70	4.70	4.63	4.77
	木全 和巳	⑬支援が行き届かない性暴力被害者の理解	4.60	4.47	4.57	4.67
12月5日	安間 優希	⑭支援が行き届かない性暴力被害者の理解（GLBTIQ）	4.87	4.73	4.70	4.90
	加藤 直子	⑮SANE性教育の実際	4.73	4.73	4.63	4.77
12月19日	愛知県警察本部	⑰警察の役割と対応	4.40	4.40	4.47	4.70
	坂本 理恵	⑱多職種連携／なごみにおける地域連携	4.73	4.73	4.63	4.73
	加藤 秀章	⑲医学的証拠採取、記録、性犯罪・DV、SANEのフォレンジックアセスメント	4.83	4.90	4.73	4.93
		⑳医学的証拠採取、記録、法医学的写真撮影	4.87	4.87	4.73	4.93
2021年1月9日	笹原 艶子	㉑協働、社会資源、相談窓口	4.63	4.70	4.57	4.73
	野口 靖之	㉒性暴力被害者支援で必要とされる性感染症に関わる基礎知識	4.77	4.77	4.67	4.87
	SANE（奥川、江口、谷内、神尾、久保田）	㉓ケアと持続：演習	4.90	4.90	4.90	4.87
1月10日	片岡　笑美子	㉔病院拠点型におけるSANE実践	4.80	4.83	4.80	4.97
	長江　美代子		4.80	4.77	4.73	4.87

以上

①カリキュラム内容について（アンケート自由記述内容含む）

- 知らなかった内容で学びが多く、質の高い講義内容であったこと、講師陣の熱意が伝わったこと、演習が効果的であったことなど、おおむね高い評価が得られた。
- 初めてのオンラインであったが、演習を含めて高い満足度が得られた。遠方からの参加が可能であることの評価もあった。
- オンラインのため資料の配付がギリギリになったことや、各自で印刷する必要があっ

たことで、プリンターなどが自宅にない場合は困ったという意見もあった。

- オンラインで、演習はやはり対面が良いという意見もあったが、よく準備されていた講義については、問題を感じなかったようであった。
- アクションプランについては、最初にアナウンスしたためか、かなり質の高い発表だった。
- 対面による受講者同士の交流や凝集性という点で課題が残る。

②プログラムなどの時間設定について

- 昨年の意見を反映し、終了時間を早くし、1 日研修を追加したことで、スケジュールについては，不満の声はなかった。オンラインであり移動の必要がなかったことも要因と思われる。

今年度の到達点①-2 における成果：地域内救急救命病院の OSC 立ち上げのサポート

- 連携センター2020SANE 受講生によるアクションプランの作成、計画、実施、修正を共同で実施した。2019 年、2020 年と連続して受講した救命救急センター10 施設については SANE が協同して評価を踏まえてアクションプランを作成した。発表は SANE 最終日　2021.1.10。
- 第 3 回性犯罪・性暴力被害者支援連絡会議では、昨年紙面発表だった 2019 年 SANE 受講生のアクションプラン発表の場を設けた。2021.3.25
  COVID-19 でなごみの実施研修参加施設が 1 施設であったため、参加した 11 施設のＳＡＮＥになごみ施設見学と概要説明を実施し、自病院でのイメージが持てた。
- 2019 年は COVID-19 対応でアクションプランの実施に戸惑っていたが、中間評価（7 月～8 月）で、施設内の性暴力被害者支援の理解と体制整備に向けたアドバイスを行い、最終評価で 2020 年につながるアクションプランを発表した。
- 連携センターの依頼を受け、「なごみ」見学、救急隊員、院内管理職および現場のスタッフの研修、事例検討への参加などを実施した。
- 2 年連続 SANE 研修に参加した 12 施設に対して、県から内閣府等へ交付金などの働きかけを促した。

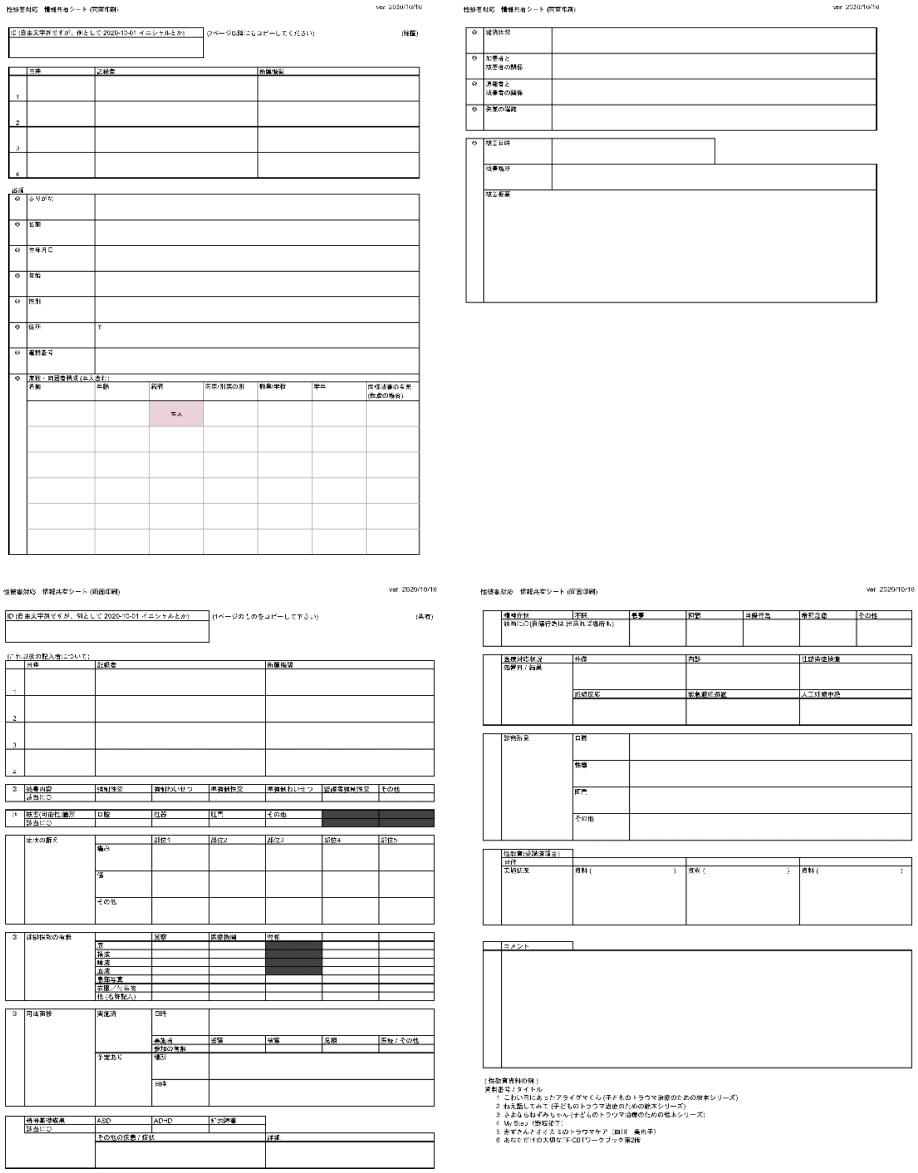
学術集会　岐阜2020.11月18-20日でポスター発表した。**テーマ**：救命救急における性暴力・DV・虐待対応の重要性と性暴力被害者支援看護師（SANE）の活動
1）日本福祉大学 看護学研究科, 2）秋田大学大学院医学系研究科,　3）（一社)日本フォレンジックヒューマンケアセンター , 4)University of Nebraska Medical Center
長江 美代子[1)],中永 士師明[2)],米山 奈奈子[2)],片岡 笑美子[3)],Mead Amy[4)] , Zeger Wesley [4),]Nguyen Thang [4)]

C. 見落とさずに適正な支援・治療につなぐ MDT によるデータ連携を実現させる：項目 A、B の PE 実施環境のデータ収集環境構築，データ分析

1. 組織間データ項目の標準化を行いデータベースの構造を設計する。

今年度の到達点①における成果：

「なごみ」内のデータのみを使ったデータ項目・分析を実施し、MDT情報共有シートを設計し、児童相談所、警察、「なごみ」間で、紙ベースでケースについての情報共有を開始した(図C-1-1)。本シートでは、検討の結果から、両面印刷された1枚目を個人情報用として、各組織で記入して保管し、匿名ID化された2枚目のみをFAXなどで共有することで、個人情報に配慮しつつも情報共有を薦められるように設計した。



図C-1-1 MDT情報共有シート

- JSTの紹介により、北九州三者同居制度について、京都産業大学の田村正博教授とのZOOM会議により連携機関の同居制度の可能性について検討した。（2020.11.16）
- JSTのサポートを受け、児相、警察、検察、弁護士、医療従事者、ソーシャルワーカーなどを対象とした司法面接研修について、立命館大学の仲真紀子教授とのZoom会議により、多職種多機関の現場の共有と合意形成について検討した。（2020.12.14）
- NGM4Sプロジェクトと名古屋市児童相談所との連携の今後についてミーティングの機会を持った。（2021.3.5）

2. データベースの作成と応用プログラムの開発

今年度の到達点①における成果：

- 「なごみ」の業務に沿ったウェブベースのケース情報入力管理システム(ただし、現在はスタンドアロン運用)を構築した(図C-2-①-1)。
- ウェブベースのケース情報入力管理システムについて、SANEなどによる実用試験、および、改良点の抽出、ならびに、アジャイルスタイルで改良を進めた。
- ウェブベースのケース情報入力管理システムについて、C-1で報告した組織間データ共有に用いているMDT情報共有シートと入力項目を共通化させ、電子ベースの組織間連携が開始された際に向けた試作ソフトウェアとした。

図C-2-①-1　「なごみ」向けウェブベースケース情報入力管理システム（一部）

今年度の到達点②における成果：

名古屋市で実用化していくための AiCAN の課題について、株式会社 AiCAN の CEO 髙岡昂太氏を中心に、名古屋市三児相の代表者を加えて検討した（2021.1.25）。結果、COVID19 の影響で対面での話し合いがすすまないこと、個人情報保護の対応について時間がかかることが予測され、合意形成プロセスがすすまないこと、などから、期間内に AiCAN 導入は困難と判断された。従って、基本的な計画の見直しが必要となった。

3.　「なごみ」利用者にトラウマケアおよび PTSD 治療を実施し、効果を評価する。

今年度の到達点①：

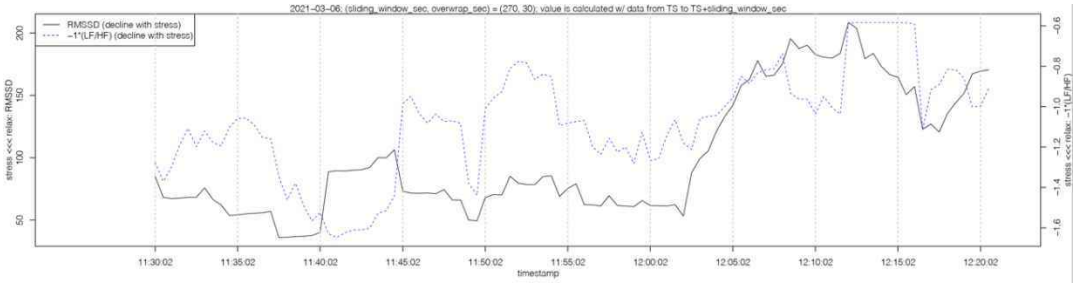
PE 治療の記録を集積するためのＣ２における入力システムの設計･構築を完成させ、実働を開始。合わせて、PE 治療記録のデータ収集を開始の成果：研究倫理審査委員会の承認を得た後データ収集開始。

今年度の到達点②：

電話対応（アドボケーターおよび SANE）について来所者から評価を得るための入力システムの構築及びデータ集積を開始の成果：研究倫理審査委員会の承認を得た後データ収集開始。

・今年度の到達点③の成果：

- 本プロジェクトの普及対象コア技術であるPE治療の平易な利用の実現に向け、新たに到達点を設定した。新規に開始したPE治療セッションにおけるHRVベース指標の同期収集を開始し、図C-3-③-1に示すようにHRVベース指標によるストレス状態評価を開始した。これは、PE治療施術者による主観評価と一定の関係性が認められた。図C-3-③-1はPE治療セッション中のHRVベース指標であり、ストレスにより数値が低くなる。PE治療セッションが進むにつれ、ストレスが改善していることが分かる。R2年度末で合計8セッションのデータが収集されており、今後も収集を継続的する。



図C-3-③-1 PE治療セッションにおけるHRVベース指標値（上昇するとストレス低減）

4.　被害児へのアウトリーチ

今年度の到達点①における成果：

米国ネブラスカ大学メディカルセンター救急部門のチームからのフリーソフトをもとに、サンプルを検討中。https://youvo.net/s/719899

今年度の到達点②における成果：

- HRV の可視化　Wearable Device
- 2020年の来所者178件について、不登校、退職、退学について被害との関連や、発生からの時間による被害の影響の違いなどを分析中。また、逸失所得などの推計の方法についても検討中。

5. 地域ワンストップ設置病院（連携センター）で受け入れた被害者のデータ収集を「なごみ」のデータに統合し、急性期３ヶ月の対応と PTSD 発症について分析する。

令和元年度に開始した、既存ケースを用いたロールプレイングなどによる関係機関の合意形成プロセスを継続する。スモールスタートを想定し、２組織ないし３組織程度の小規模のデータ連係プロセスについての合意と個人情報保護に基づく承諾を得た上で、将来的にデータベースが稼働した場合の利活用シナリオを構築する予定だが、成果としては、令和２年度は、特になし。

D. 啓発・教育・広報活動を通じて性暴力を未然に防ぐことができる社会システムづくり一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター（ＮＦＨＣＣ）を立ち上げ以下の活動に取り組んでいる。

１．啓発・教育・広報活動

今年度の到達点①の成果：

- なごみおよびNFHCCの活動として、教育施設、警察、行政など幅広い分野から講演やシンポジウムの依頼があり、現状と予防の大切さ、現状と合わない刑法を改正する必要性、教育現場との連携の必要性を訴えることができた。
- 被害者だけでなく、家族のケアが必要であること、被害者のPTSDの深刻さなどがメディアで取り上げられた。
- なごみ連絡推進会議メンバーに、教育委員会と薬剤師会が加わり、連携の幅が広がった。
- 大学の講義としての依頼が徐々に広がってきた。

（４）当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

プロジェクト全体として、精神科アンケート結果から地域の精神診療機関における PTSD の診療状態を把握でき、協力可能な病院、クリニック、個人セラピストが 32 件あったことは心強く、今後のトラウマ拠点整備への具体的な示唆を得た。また SANE 養成をオンラインで実施できたため連携センター設置を継続して進めることができている。学会認定試験 SANE-J が実施できたことで、愛知県性犯罪・性暴力被害者支援事業との協働による OSC 拡大の土台づくりを促進できた。しかし、COVID19 の影響により集団で対面による教育研修活動がおくれたことで、予定していた人材づくりや MDT 活動の合意のプロセスが大幅に遅れた。結果として MDT は実質児童相談所となごみによる情報共有にとど

まり、AiCAN 導入自体を検討することになった。とはいえ、PTSD を可視化するための試みとして Wearable　Device の試行に積極的に取り組むことになったことは、シーズである PE の普及の可能性を広げたと言える。さらに、なごみデータ入力システムの基礎ができたことで、性暴力被害の社会経済的影響の調査分析が具体的になった。

次年度に向けた課題としては：

- 「なごみ」で対応した被害者のPTSD治療の場の拡大と専門家の育成
- 専門家の育成として、現場実践を共有し相互に発展できる関係･体制づくりと、資格の階層化
- SANEに加えて職種を問わない体系だった支援者プログラムや、被害児の包括的全身診察ができる医師の育成
- 実践的なMDTを構成するためには、多職種多機関をつなぐとりくみが必要であるが、COVID19の影響を受けても継続できる方法の検討が必要
- 教育研修活動およびMDT実践については、オンライン、対面いずれも対応できるハイブリッドを前提として計画を立て、新たな方法についてチャレンジ
- MDTが目指す機能を発揮するためには、個人情報保護を確実にすることが必須であり、今後の大きな課題

２－３．会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
定期月１回	プロジェクト（NGM4S：Nagomi for Survivers）会議	zoom または teams	3 月以降 zoom プロジェクト活動の報告及び検討
定期月１回	MDT ワーキング	zoom または teams	データ共有のための多職種多機関連携チーム（MDT）の構築と合意形成
定期月１回	データ入力ミーティング	zoom	なごみのデータ項目の決定と入力システムの開発と実装
定期月１回	SE ワーキング	zoom	性暴力の社会経済的影響について
2020.10~2021.1	第 7 回性暴力被害者支援看護職（SANE）養成プログラム	zoom 対応	8 日間〔64 時間〕のプログラムであり、看護師/助産師/保健師の資格保持が受講要件。
2020.12.16	CARE(大人と子どもの絆を深めるプログラム)	日本福祉大学東海キャンパス	看護実践研究センターのトラウマインフォームドケアとして実施
2021.11.16	田村正博　教授 京都産業大学 ミーティング	zoom	北九州三者同居制度について
2021.3.	仲真紀子　教授 立命館大学 ミーティング	zoom	司法面接研修について
臨時会議 2021.3.5	児童相談所との打ち合わせ	名古屋中央児童相談所	なごみと児相の今後の活動について、またデータ共有および協働について

３．研究開発成果の活用・展開に向けた状況

○　トラウマ・PTSD治療がどこでもうけられるようにOSCと精神医療機関の連携を強化する
○　日本フォレンジック看護学会と連携して、SANEプログラムの一部WEB化し全国各地でSANEプログラムを実施できるようにする。また、コアカリキュラムの提供とSANE-J認定制度の定着により、SANEの質を確保する。
○　救命救急医療の場にSANEを定着させる。
○　PTSDの可視化に向けてWearable　Devicesの活用
○　PTSD治療（PE）のオンライン実施によるアウトリーチ

４．研究開発実施体制

（１）研究者グループ

グループリーダー:長江美代子（日本福祉大学、教授）

役割:研究グループは本プロジェクトの目標達成に向けて、なごみグループによる日々の性暴力救援活動に関わり、データサイエンス支援グループにより作成開発されたデータベースや応用プログラムを実践に乗せ、データ連携を確実に実現できるように、計画を練り、対話を通して評価修正していく。

概要:研究代表者は、毎週「なごみ」で PTSD の予防・治療・回復に関わる側面を担当している。また、なごみに関わるスタッフの研修ついても、研究者グループが企画実施している。研究グループは、技術シーズ PE の開発者（Edna B. Foa）、PE の導入者（小西聖子）、心理教育アプリケーション開発者（今野理恵子）、SANE プログラムの導入者であり学会認定を進めている研究者（加納尚美）で構成している。

（２）なごみグループ

グループリーダー:片岡笑美子（一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター、会長）

役割:愛知県との協働により、性暴力被害者支援看護師（SANE)を配置した病院拠点型ワンストップ支援センターを複数開設し、なごみをハブとしてモデル化し、他地域へと展開していく。

概要:主に、拠点病院のスタッフと、医療・司法。行政に関わるなごみ連携組織のメンバーで構成されている。MDT の主要メンバーを含む。

（３）データサイエンス支援グループ

グループリーダー:間瀬健二（名古屋大学、教授）

役割:なごみを中心に構築された地域内のステークホルダーとのネットワークと協働し、データベースや応用プログラムを作成設計する。研究グループとともに OSC の活動データの標準化・蓄積・分析基盤を設計する。

概要:情報学研究科知能システム学専門家、労働経済学専門家、データマネジメントを含め、看護系の研究支援の経験が豊富な株式会社マイ.ビジネスサービスで構成されている。

５．研究開発実施者

研究グループ、なごみグループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職（身分）
長江美代子	ナガエ ミヨコ	日本福祉大学	看護学研究科	教授
片岡笑美子	カタオカ エミコ	一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター		会長
小西聖子	コニシ タカコ	武蔵野大学	人間科学部大学院	教授
Edna Foa	エドナ フォア	University of Pennsylvania	Center for the Treatment and Study of Anxiety	教授
田中敦子	タナカ アツコ	日本福祉大学	看護学部看護学科	助教
平松綛子	ヒラマツ ヒロコ			RA

データ・サイエンスグループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職（身分）
間瀬健二	マセ ケンジ	名古屋大学	大学院情報学研究科	教授
榎堀優	エノキボリ ユウ	名古屋大学	大学院情報学研究科	助教
大沢真知子	オオサワ マチコ	日本女子大学	人間社会学部現代社会学科	教授
髙岡昂太	タカオカ コウタ	産業技術総合研究所		
林直美	ハヤシ ナオミ	株式会社マイ.ビジネスサービス		副社長
加藤寛貴	カトウ ヒロキ	名古屋大学	大学院情報学研究科	研究補助者

６．研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

６－１．シンポジウム等

なし

６－２．社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

（１）書籍、フリーペーパー、DVD

翻訳：長江美代子訳.(2020).第 9 章暴力：性的暴行とフォレンジック看護師(201-256),Constantino, R. E., Crane, A. P., & Young, S. E.（2013）, Forensic Nursing: Evidenced-based principles and practice（フォレンジック看護ハンドブック: 法と医療の領域で協働実践、柳井圭子監訳). 東京: 福村出版.

（２）ウェブメディアの開設・運営、

- SANE 紹介ビデオを作成し、HP にアップした。https://nfhcc.jp/?page_id=28（2020 年 6 月）

（３）学会（7-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- 内閣府山口県主催ライブ配信シンポジウム、性暴力救援センター日赤なごやなごみの現状と課題、2020年11月25日、政府広報オンライン

６－３．論文発表

６－４．口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

（１）招待講演（国内会議__1__件、国際会議____件）

- 片岡笑美子(一社)日本フォレンジックヒューマンケアセンター）、長江美代子（日本福祉大学）：市民公開シンポジウム「市民公開シンポジウム「安全な地域と社会を創る」、第7回日本フォレンジック看護学会学術集会、オンライン開催、2020年8月29日

（２）口頭発表（国内会議__1__件、国際会議____件）

- 間瀬健二（名古屋大学）：性暴力撲滅に向けた早期介入とPTSD予防のための情報連携基盤構築に向けて、令和二年度 電気・電子・情報関係学会 東海支部連合大会、オンライン開催、2020年9月4-5日）

（３）ポスター発表（国内会議__1__件、国際会議____件）

- 長江美代子（日本福祉大学）：救命救急における性暴力・DV・虐待対応の重要性と性暴力被害者支援看護師（SANE）の活動、第48回日本救急医学会学術集会、オンライン開催、（2020年11月18-20.日）

６－５．新聞報道・投稿、受賞等

（１）新聞報道・投稿（__3__件）

- 朝日新聞（2020年4月6日）性暴力の被害者ケア　専門の看護師育てる　学会が資格

認定制度　試験実施へ
- 日本経済新聞夕刊（2020年9月25日）つらい性被害　支援の輪
- 朝日新聞（2020年9月29日）子の性被害を知った保護者のケア

（２）受賞（ 1 件）
- 中京テレビ（2020 年 5 月 25 日）ドキュメンタリー「がらくた」、日本民間放送連盟賞の報道部門「最優秀賞」

（３）その他（ 3 件）テレビ放映
- NHK　おはよう日本　おはよう東海で放映されたものを一部変更して（2020 年 4 月 22 日）
- NHK　おはよう日本まるっと！「＃８８９１」の案内」（2020 年 10 月 6 日）
- 名古屋テレビ（メーテレ）　アップ　性犯罪…被害者家族が抱える PTSD（2021 年 2 月 16 日）

６－６．知財出願
なし